

JC幼な妻の子作りエプロン大作戦♪  
～とろとろおまんこにハチミツを添えて～

※一部本編と異なる場合があります

● トラック01 :

シチュ：ある日の夜、愛衣は同じ年の友人と電話で子作りについて色々相談していたのだった……

「あ、もしもし？ ゆうちゃん？」「ねんね？」「んな夜遅くに」

「うん、丁度彼がお風呂に入つていつたから、相談するなら今しかないかなって……」

「わい……お昼にもわいと話したけど……うん、子作りの」と

「少子化対策で結婚年齢が大幅に下げられて、出産成功率も99%まで上がつてきて皆JKになる前には結婚して子供産み始めてるでしょう？」

「ゆうちゃんだつてつい最近また妊娠してもう2人田になるし……」

「私もあと1年でJKになつちゃうのに、やううHツチな事つてまだ恥ずかしくて……でも彼との赤ちゃんは欲しいし……わいどうすればいいのか分かんなくなつちやつて……」

「…………え？ 愛衣は可愛いんだから脱いで诱えれば一発つて……そ、そんな事恥ずかしすぎて……うう……わい……ゆうちゃんのバカア！」

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

「彼とは」の前結婚したばかりだし、いつも遅くまでお仕事頑張ってくれるからそんな、エ、エッチに誘つて疲れさせるなんて……私にはできないよお……」

愛衣

「ふえ？ うう……確かにこのままだといなのに子供がない生き遅れになっちゃうけどお……でも、それでも……うう……」

愛衣

「参考までに聞いてみたいんだけど、ゆうちゃんはどうやって旦那さんと子作りエッチに踏み込んだの？ 最初は恥ずかしくなかった？」

愛衣

「旦那さんとの子供を思い浮かべたら幸せな気持ちに溢れて、想いのままにお互いを求めたらいつの間にかエッチ三昧の日々を送つてた……って、あはは……流石ゆうちゃんなんだね。リビングで生きてるって感じが凄い埃わつてくる……」

愛衣

「でもそっか。大好きな彼との子供が生まれた未来を想像する…………えへ、えへへつ、えへへへへ

えへへ

愛衣

「……あつ！ い、いめん！ ちょっと妄想してだらしない声出ちやつた！ つて、ああ！ そんなに笑わないでよ！ もう！」

愛衣

「……まあ、でも確かに彼と子供と3人で過ぐす時間を考えると、胸の中がぽかぽかして幸せな気持ちでいっぱいになるっていうのは分かるなあ……絶対子供欲しいって思えたもん♪」

「そっか……」の幸せな時間を現実にするためには恥ずかしがってないで、彼と毎日子作りセックスしないといけないんだよね……」

愛衣  
「……うん、決めた！ 明日は学園も彼の職場もお休みだし、絶対子作りセックスする！ 私も彼の幼な妻としてちゃんとしたママになつて見せる！」

「えぐく、ゆうわやんおりがどり、ゆうわやんとお話出来て、私やつと彼とセックスする決心がついたよー！」

愛衣

「…………ん？ 最後に私にアドバイス？ なにかな……  
……つて、彼を確実に堕とすエツチな誘惑術？  
え！？ そんなものがあるの！？」

愛衣

「それって私でも簡単に出来るのかな！？」ねえ、  
教えて教えて！」

愛衣

「…………うん…………うん、うんうん…………うん? も、そ  
れつて…………えり、ええええええええ――? ? ?」

シチュー：早朝、旦那様と一緒にベッドで寝ていた愛衣。目を覚めてもいつも通り起こうとするが、今日はいつもと違つてエッチな起こし方をするようだ……

舞台：寝室（8畳程度）の木製ダブルサイズベッド上

服装：主人公『寝巻薄手シャツ』 愛衣『エッヂというよりは可愛い感じの薄手キヤミ』

「ん、んん……んつ……ふああ（欠伸）……んう、あさあ……？ んにや……昨日やうちやんと長電話しちやつたからちよつと眠いかもお……ふああ……（欠伸）」

「ん、えへへ♪ おはよう、あ・な・た♪ ……って、まだお休み中かな。昨日もお仕事遅くまで頑張つてたもんね……いつも家庭の為に頑張つてくれてありがとうね♪ ん、ちゅう♪」

「えへ、えへへへ♪ 朝からお耳にチューしちやつた♪ ちょっと大胆すぎたかな……？ でもゆうちゃんも積極的にいかなきやダメって言つてたし……」

「そうだよ。絶対に子作りエッチするつて決めたんだから、こんなところで恥ずかしがつてちゃダメだよね。ファイトだよ、私！」

「もつと大胆に、もつと積極的に……んんう、えい！」

「ふああ♪ 腕に抱き着いちゃつた♪ 大好きな旦那様の腕……子供の私とはくらべものにならないほど立派で逞しくて……とつても安心する♪」

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

「……うやつてあなたのぬくもりを感じるだけで心が安らいで、幸せな気持ちが胸いっぱいに溢れてきちゃうの……」の人と結婚して良かつたって心の底から思えるの

愛衣

「好き♪ すきすきすき♪ だい好き♪ 世界の誰よりも好き♪ 愛してるよ♪ 私の愛しの旦那様……♪」

愛衣

「……つて、ひやああ！ 気持ちに任せますっ！」い恥ずかしい事言っちゃったよう……！ 恥ずかしそぎで身もだえしちやう……」

愛衣

「今お聞かれてないよね？ ……つんつん……ん、大丈夫そう、かな？ はあうう 良かつたらまだ寝ててくれて」

愛衣

「んんう、このまま寝てくれるなら、もうちょっといたずらしてもいいよね？ 今日は一日暇だし、ゆうちゃんのアドバイスを試す絶好のチャンスだし！」

愛衣

「確かに男の人ってお嫁さんにお耳をいたずらするのが大好きなんだよね……耳かきとか、お耳にちゅうとか……そ、それに……お耳をペろペろ、とか……」

愛衣

「ちょっとH、エッチ！ だけど、あなたが喜んでもくれるなら私、何でもしてあげるからね？」

愛衣 「それじゃあ、まほはお耳に……ひ……ちゅうへ  
ちゅうへ……ちゅうへ……ひゅうへ」

愛衣 「好き……すまかわへ ちゅうへ……ちゅうへ  
ちゅうへ……んんへ……ちゅうへ……りりゅうへ」

愛衣 「あむつ、ちゅうへ、ふちゅうへ……んつ、好きいへ  
……大好きこ……ちゅうへ ちゅうへ……はむ、ふ  
ちゅうへ……ちゅうへ、ちゅうへ」

愛衣 「ふああ……へ、歯じやなくてお耳にキスしてただ  
けなのに、胸がドキドキしちゃうよおへ もつと  
顔も真っ赤になちゅうへ……りりゅうへ……恥ずか  
ちい」

愛衣 「でも好きい……すまかわこ……だいちゅうへ……  
んんへちゅうへ ちゅうへ、ちゅうへ」

愛衣 「この勢いのまま……んん、れるつ……ちゅうへ  
ふああへ お耳舐めちゅうたあ」

愛衣 「大人のキスもまだなのに……ひう……恥ずかちい  
よお……ヒツチだよお……」

愛衣 「ううう……我慢だよ私！ つていうか、私自身興  
奮しちゅうてるから別に我慢する必要もない気が  
するけど……」の想いのまま、じつぱいお耳を舐  
めてしまふ……」

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

「ん、ちゅうへ れあむひ……あゆひ、ちゅうぱひ…  
…ちゅ、れろひ……ぱふ、ん、ちゅう……ん  
ちゅう……れろひ、んぶつ……ちゅうちゅう、  
ちゅうぱひ……れろひ、んちゅう、れろひ……ちゅ  
ぱひ」

愛衣

「んん……しゃきご……しゃきしゃきご……れ  
ちゅう……れろ……れろれろひ……あゆひ……  
ちゅう……じゅるひ……あゆひ……ちゅぱひ……  
はあ……はあ……」

愛衣

「あっ♪ あなたの体がピクッとして……まだおね  
むなのに体は感じちゃってるのかな? フフフ  
いつも凜々しくてかっこいい姿ばっかり見てき  
たから、」「ううう可愛い姿は新鮮かも♪」

愛衣

「もひとあなたの可愛い姿を見せて? こいつまでは  
のちつちつな舌で感じじて?」

愛衣

「んへへちゅうへ ちゅう……ちゅぱひ……ひ  
ちゅう、くちゅう……あゆひ、れろ……れろれろ  
……ちゅうぱひ、くあせひへ」

愛衣

「もひと……ん、れるひ、くちゅぴちゅう……  
ちゅう……んちゅう……れろひ……れろれろひ……  
…ん……ちゅう……あゆぱひ……んつ……  
……くちゅ……」

愛衣

「しゅわー……愛しいる……かわい……れる、ん~  
ちゅぱり……せむぱわわい……ちゅい、れる……  
ちゅい……わせぱり……わせう~~」

愛衣

「ふさり……ん、ちゅい……はあ、はあ……まだ起  
きないのかな? いつもだつたら少しうするだけ  
で起きてくれるんだけど……ちゅい……ちゅい、  
ちゅい~」

愛衣

「えくく~ 大好きなあなたを一方的にペロペロ出  
来る機会なんて中々ないだろ~」し、まだ眠つてく  
れてる今なら、もつともわ~と沢山ぐるぐる出来  
るかも~ ふくくえ~~ しあ~せ~~」

愛衣

「ん~~ちゅい~ ちゅい、ちゅい~ れる~~  
……ちゅい~ れるれる……ちゅい、ふちゅい……  
ん~~くちゅひちゅい……ちゅい、れるれるれる  
……はむり……すき~~ ちゅい、ちゅい~  
すきすき~~大好き~~」

愛衣

「ん、ちゅ…… ちゅぱり、れるつ、ん~!  
くちゅい、あせぱり、じゅふふり…… れるれ  
る……」

愛衣

「ふううう……、えくくく、お耳ぐるぐるしたおかげであなたのお耳ひかぴかになつちやつた…  
…つていうよりは私の唾液でべトベトになつ  
ちやつたつてこつた方がいいのかな……？ 何だ  
かこいつ、お嫁さんしてると感じが凄くて……は  
うううう……幸せすぎるよお」

「好きになつてくれてありがとう、結婚してくれ  
てありがとう、私はね、あなたのおかげで幸せ  
いっぱいだよ、んうちゅう」

「あははへ、寝てるのに体もれもれしてゐる、囁か  
れて嬉しいんだへ、じやあ寝ているうちに反対側  
のお耳にもじいぱじちゃうちゅうぺろぺろしてあげ  
るへ」

愛衣  
愛衣  
愛衣

「ん、しょ…………う…………ふうう…………えくく  
く、あなたの愛衣がこいつのお耳にも来ましたよ  
うへ」

「んうちゅうへ、ちゅうへ、ちゅうへ、好きへ、すき  
すきじゅへ、お耳もぐるぐるしてあげるねへ、あ  
くむりへ、ちゅうへ、くちゅうへ……れるへ、れるれ  
るれる……わぬう、わぬう」

愛衣

愛衣

愛衣

「れろり♪ ちゅつ、ちゅつ♪ ぴちゅ、くちゅ……！ んんつ！ はあ、んつ……はあ……れろれろ……ふう、始めより大分大胆になつてきちゃつたかも♪ 私つて自分が思つてる以上にエッチな事が好きだったみたい♪」

愛衣  
「私を『んなエッチな子にしたのはあなたなんだからね？　あなたが素敵すぎるから……あなたが私を『んなに魅了しちゃうから。だからね？　愛衣のお耳』」奉仕、いっぱい受け止めて♪　思つ存分感じて気持ちよくなつて♪」

「あむい、かねい……だれい、かねい、かねい  
じゆうい、じゆうじゆう……かねい、かねい  
かねい、れぬい、かねい、かねい」

「わたくし、わたくし、わたくし、好めへおれおれ  
♪ 大好きへ♪ おきいじへ んわなひへ 誰よ  
リも好きへ わたくし、わたくしひへ れるれれ…  
…じゅうじゅうへ…わたくし、愛してねへ 愛  
してねのね…♪」

愛衣

「結婚して貰つてありがとう、大好きになつてくれてありがとうございます、んちゅう、ちゅう、ちゅう、しなせう……、あせう……、だいちゅう……」

愛衣

「れる、ふかわいの、ねむい、くわいひの、れ  
るつ、れられら……愛してゆく……じゅうじゅう  
りや、ちゅうりゅう……」

愛衣

「ん、やないか、ふ」やああ、櫻さるぐみこ  
いはせわざりへばじだもおへへへ、あれど、す  
れかれこへ、だしこをれこへへへへ」

愛衣

「好きすぎるで、気持ちが溢れすぎて、ううう……もつと抱き着いちやうー」ぱいひゅ、ぱいひゅ

愛衣

「えへへへへ、」ちの腕もあつたかくて氣持しいい。首元も……すんすん……ふあああゝ、男の人の匂いだへへ」

愛衣

「私の、私だけの旦那様の匂い……愛しの人の匂い……  
これ好きい……♪ すんつ、すんすんつ……  
すうううううはあああうう♪ ずっと嗅いだと  
どうにかなつちやいそり♪」

愛衣

「あ、首元に汗が垂れて……んっ、れろつ♪ えへ  
ぐ、舐めちやつた♪ ちょっとしおいせいかど、  
おいしい♪」

愛衣

「もつと胸の方も舐められるように、上に移動してつと……わっ！　あなたの顔の目の前にきちゃった。これ、キ、キス、できちやう距離、だよね……」

愛衣

「じ…………んつ、良かった。まだちゃんと眠つてくれてるみたい。わあ、いつ見ても素敵でかっこいい顔だな~」

愛衣

「私と出会いまでお付き合いの経験がなかつたなんて今でも信じられないよ……」「んな素敵な旦那様なのに、世間は見る目がないよね」

愛衣

「好き、大好きだよ、あ・な・た♪ ちゅつ♪ ちゅつ♪ ちゅつ♪ ふへへ♪ 唇にもキスしてやつた♪」

愛衣

「寝てる間に乾燥しちやつたからか、あなたの唇ちゅつとカサカサしてる……もつとキスして潤してあげるね♪」

愛衣

「んぐちゅつ♪ ぱぶつ、んちゅつ♪ ちゅつ、ちゅつ♪ すき♪ ん、すき♪ ……ちゅつ♪ れろつ、れろれろ……ちゅうううう♪ ちゅつ…」

愛衣

「はあ、ほんと好き、大好き♪ いつぱいすりすり しちゃう♪ すりすり♪ すりすり♪」

愛衣

「好き♪ んちゅつ♪ すきすき♪ ちゅつ、ちゅうううう♪ ちゅつ♪ ぱむ、こんちゅつ♪ ちゅううううちゅづ♪」

愛衣

「はああ♪ 朝からいつぱいあなたを堪能しちゃつた……ふくつ、ふくへ♪ やつ、ダメ、変な笑いが出ちゃう……でも、嬉しそぎてにやけが止まらないよお……ふくくく♪」

愛衣

「万が一こんな顔をあなたに見られちやつたりしたら、きつと恥ずかしくて恥ずかしくてどうにかなつちやうかも。普段だったら絶対起きてる時間だけど今日は寝坊助さんで良かつたあ～♪」

愛衣

「ん、あれ？ 体が揺れてる？ 地震かな？ ちょっと大きいかも。流石に早く起こしてあげないと……つて、ふえ？」

愛衣  
愛衣  
愛衣

「あ、あなた……え、目が開いて……え？ 起き、てる、の？ ふえ？ じつの間に？」

「あ、そうか！ 今起きたんだよね！ 今の地震のせいで起きたんだよね♪ うん、そうだよね！ そこに違いないよね♪ えへへ♪ めんね、胸の上に乗つかつちやつて♪」

愛衣  
愛衣

「え、今の揺れは地震なんかじゃなくって、あなたが身じろぎしただけ……」

「……あ、え？ ジヤ、じやあ……も、もしかして、ほんとは最初から起きてた……とか？ そんなどよ、ないよね？ え、いや……え？」

愛衣

愛衣

「いやつ！　いやつ！　にやあああああつ！！  
や、ダメ！　恥ずかしい恥ずかしい恥ずかしい恥  
ずかしへい！！」

愛衣 「ほとんど最初から聞かれてたってことだよねそれ！ あんな、耳元でスキスキ言つたり、愛して  
るつて言つたり、あまつさえ『マーキングしちゃ  
う♪ てへつ♪』なんて言つたりいいいい  
いい！！！」

愛衣

「『いくつも』じゃないだろ？……ひー！ そういう細かい事はどうでもいいの……ひー！ か、そんな細かい」と覚えてるくらいにはっきり目が覚めてたんだあ！」

愛衣

愛衣

愛衣

「あう……」めんね？ ちょっとまだ気持ちの整理が出来てないから……もうしばらへ」「うやつて抱き着かせて？ あなたの胸、私に貸して？」

愛衣

「あ……えへへ、抱きしめてくれてありがとう。ふあああ……落ち着くう……やつぱり寝てるあなたを一方的に抱きしめるより」「うやつてお互いに抱きしめあう方が断然すき……愛されてるっていうのが分かるのぉ♪」

愛衣

「はふう……ふう……ん……段々落ち着いてきたかも……ああんもう……やうちゃんの言う通り積極的になつてみたけど、調子に乗りすぎちゃつたよう……」

愛衣

「ふえ？ あ、うん。その、今日はね？ あのう、お互いお休みでずっと一緒にいられるでしょ？だから、その、色々普段できないような事をしてみたいなって思つて……」

愛衣

「…………うん、そななの……朝起きたら田の前に愛しい旦那様の寝顔があつて、気持ちが昂つちゃつて……つい、ね？ でも今日は一日あなたの事いっぽい気持ちよくしてあげたいって思つてたから……頑張つちやつた、みたいな？」

愛衣

「あはは……もしかして、こんなエッチな私は嫌いになっちゃつた、かな？」

愛衣

「あ、きやんジー… わり、そんな強く抱きしめられちゃつ……ひやううう……」これは「れで恥ずかしくなつちやうう」

愛衣

「うん、うん……嬉しい♪ 私も大好きだよ♪ あなた以外の人を好きになるなんて想像できないくらい、だいだいだらうじすき♪ 心の底から愛してる♪ ほんとだよ? んへへ♪」

愛衣

「まだ1日が始まつたばかりなのに、すでに「」こんなに幸せいひぱいで……「」にかなつちやいやうだよおへへ♪」

愛衣

「えくへへへ、いつまでもずっと」と「」してみたいけど、もうお日様も大分昇つちやつて、お昼になつちやいやうだね」

愛衣

「ん、ショット……そろそろ着替えて起きよつか♪ お腹も空いてきた頃だと思つし、「」飯作らなきやだしね」

愛衣

「あー! でも!」飯作つてる間はリビングに来ちゃダメだからね! 絶対ダメだよ!」

愛衣

「え? なんで……って言わると、そのう……ひ、秘密! 今田の料理にはサプライズがあるから秘密なの! って、わつ! サプライズって言つちゃつたらサプライズにならないよ……」

愛衣

「とにかくっ！ 私が入ってきていいよって言うまで来ちゃダメだからね！ 絶対だからね！ もし約束を破つたりなんかしたら少しの間だけ口をきいてあげないんだから！」

愛衣

「うん、えへへ♪ 分かりてくれたみたいでよかつた♪ 「めんね？ 急に「んな」と言い出して「でも、期待してくれていいよ？ ゆうちやんもこれならきっとあなたを満足させられるって言つてたし。今日はあなたの為に何でもしてあげちゃうんだから♪ 楽しみにしてね♪」

●トランク03：

シチュー：料理が完成し主人公をリビングに呼び出す愛衣。そこには何と裸エプロン姿で完成した料理をテーブルに置く愛衣の姿が……

舞台：広さ14畳程度のマンショントリビング

服装：主人公『薄手』シャツ 愛衣『裸エプロン』

愛衣

「あ、はい！ 『飯の準備は出来てるから入ってきて……つて、いや、やつぱりちょっと待つて！ ちょっとと落ち着かせて！」

愛衣

「すううう……はあうう……すううう……はあうう……うん、よし！ 絶対大丈夫！ 恥ずかしくない、恥ずかしくない！」

愛衣

「うん、いいよ。今度こそ入ってきて……いい、けど……引かないでね？ 絶対引かないでね！ お願いッ！」

「お、おはよー」飯出来るから、  
い、一緒に、食べよ?」

「ううへへそんなど」「ひで固まつてないで何とか  
言ひてよお~」

「やつぱり」の恰好変だつたかな? 裸にHプロン  
だけなんて……ちょっと動いただけでいろんなと  
ころが見えちゃいそうだし、お尻なんて常に丸見  
えになつちやつてるしげ……

「引いた? 引いちやつた? うう……やうちや  
ん、裸エプロンなら絶対いちふだつて言ひてた  
のに引かれちやつたよう……(しゃんぱり泣い  
ちやうような演技で)」

「わっ! ? え、急に抱き着いてきて……ふえ?  
引いたわけじゃなくて私が可愛いすぎて見惚れて  
た……つて……え、本当に? その場限りの言い訳  
とかじやなくて、本当に見惚れてくれてたの?」

「ふああふ、ううう……良かつたあ……頑張つて恥  
ずかしい思いして挑戦してみた甲斐があつたよお  
……ゆうぢやん、アドバイスありがとうく……  
」

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

…

愛衣

「んぐ、えへへ♪ そつか、氣に入つてくれたんだあ……じゃあ、今日は一日ずっとこの恰好でいてあげるね♪ すつ」「い恥ずかしいけど、せつかく着たんだもん。新妻の正装って言われるみたいだし、今日の私はあなただけの裸エプロン奥さんだよ♪」

愛衣

「いっぱい私の裸エプロンを堪能して? いっぱい私の事を愛して? ん、ちゅつ♪ ちゅつ♪ んちゅつ、ちゅつ……くちゅつ、ぴちゅつ♪ んうれろ、れろれろ……ちゅううううふはつ♪ はあ、はあ……」

愛衣

「ん、気持ちに任せて思わずキスしちやつた……えへへへ♪ 唇合わせただけなのに、すつ」「気持ちよくなつちやう……」

愛衣

「んつ……はあ……んんつ……や、なんか朝にいっぴいぺろぺろしたのもあつてか……おまたのところがむずむずしちやつて……んんつ……ふう……はあ、はあ……エッチな気分になつてきちゃつたかも……」

愛衣

「あなたはどう? エッチな気分になつてくれてる? つて、あつ……ズボンが膨らんで……んつ、あなたも私に興奮してくれたんだ……嬉しい♪ それじゃあね?」

「今日は」のままいつぱいHラッシュよ？ 裸エプロン姿の愛衣をいつぱい愛して♪

「ふえ？ 何の音？ って、あ、そうだ！ 忘れるところだったよ！ まだ」飯を食べてなかつたんだつた！」

「うう……」めんね？ 「のままいつぱいラブラブエッチするつもりだったのに……でもせつかく作ったご飯が冷めちゃうのも嫌だし、あなたにいっぱい私の料理楽しんでほしいから、エッチの前にまずは」飯食べちゃお？ ……それでね？ えつと、その……」

「」飯食べ終わったら、食後のデザートに愛衣をいっぱい食べて？ 柔らかくてあまりい愛衣の体、残さず味わってね♪

●トラック04：

シチュー：昼食も無事食べ終わり、いよいよ最後のデザートとして愛衣をいただいちやう「と」……

「ふう……」れでお昼の後片付けも終わり、つと…  
…つて、ひやわッ！？」

「あうう……そんな急に抱きしめてきて……えへへ  
♪ もう我慢できなくなつちやつた？」

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

愛衣

「そうだよね。朝からいたずらされて、私の裸エプロンを見て、いっぱい精のつぐものをあうんって食べさせられて……」「れだけされたらエッチしたくてしたくて堪らなくなってきたいやうよね?」

愛衣

「……うん、そうだよ? 愛衣ね? 昨日の夜からあなたとエッチする事ばかり考えてたの……まだ子供で学生の私の代わりにいつも夜遅くまでお仕事頑張ってくれてるあなたに、少しでも元気になつてほしくて……」

愛衣

「あ、いや、でも……もちろんあなたに元気になつてほしいっていうのも嘘じゃないんだけどね? 本当の目的はちょっと違うの……」

愛衣

「……本当はね? あなたとの、その……赤ちゃんがね? 欲しいな、つて思つて……いっぱいあなたの精液を、私の子宮にぴゅっぴゅしてもらいたくて、色々頑張っちゃつた……♪」

愛衣

「……うん、やうちやんに相談したらね、新妻は裸エプロンで旦那様を誘つて沢山孕ませエッチすれば確実に妊娠するつて言つて……はじめはすつりごく恥ずかしくて、引かれたらいどうしそう……つて不安でいっぱいだつたけど、ふふふ、こんなに強く抱きしめられて求められてるなり、やってみて本当に良かったよ♪」

愛衣

「えへへ……♪ ね、食後のデザートの前に、口直しのちゅ～しよ～。お口のなか、私がいつぱいペロペロして綺麗にしてあげる♪」

愛衣

「ほら、ん……ちゅ～♪ ……ちゅ～、ちゅ～♪ もうと口開けて？ ん～ちゅ～、舌ひいてえ……れろつ……んちゅ～、れろれろ……れろれろれろ……」

愛衣

「……ちゅ～……ちゅ～♪ ……すき……ちゅ～……ちゅ～……ん……ちゅ～……ちゅ～……はあ……大好き～、ちゅ～……ちゅ～♪」

愛衣

「はあ～～……「ラブ」ラブキスう～～……しあ～せ～……♪ すき～、愛してる♪ ちゅ～♪ ん～ちゅ～♪」

愛衣

「いいよ～、あなたも我慢の限界だろ～♪、なにより私がもう我慢できなくなっちゃって……おまんこがね？ あなたのおちんぽ欲しがっちゃってね？ ……エツチなお汁ぴちゃぴちゃ垂らしちやつてるの。……ほら、Hプロンの内側、触つてみて？」

愛衣

「ひゃんつー？ あ、あなたの指がおまんこに触れで……きゃんつー？ や、らめえ……今敏感になつてて……ダメ、そんな指でおまんこ膚めないでえ……」

愛衣

「やんひー… や、 反対の手でお尻まで……ほんとにダメ、ダメだつてばあ……おまん」とお尻もみもみされちゃや、 気持ちよすぎて変になっちゃう……」

愛衣

「あひ、 やひ、 あひふ 太ももも撫でられて、 愛液掬い取られて……ひうー… や、ダメ！ クリちゃんダメえ！ 皮捲られて、 愛液で濡らされてしま……クリちゃんし」「しないでえ！」

愛衣

「や、 らめ……むりい……中指おまん」に入れられて、 くちゅくちゅされながら、 クリも膚められてしま……お尻と太ももも揉まれてえ……気持ちよさで頭おかしくなる……おかしくなつちやうのお…」

愛衣

「はあ、 はあ……んひ……はあ……ねえ、 もつと強く抱きしめて？ 私がどこかにいつちやわないよう尼、 あなたの胸で強く抱きとめてえ？」

愛衣

「あひ、 んん、 あひたかい……んひ、 あひ、 あんひ！ もう、 らめ……」「あんね？ ハツチの前に、 私だけいつちやう、 かもつ！」

愛衣

「やひ！ 手の動き早くなつてつ…… あひ……あひ……あひ……あひ！ ダメッ！ ほんとにイクッ！ イクイクイクイクッ！ イツツクうううううううう……」

「やあ……ひめえ……お願い、止まつてえ  
おまんこからお潮止まつてえ……」

愛衣

「あつ、あつ、あああつ……き、氣持ひいい……」  
んなの知らにやいい……おまんこおかひくなりゅ  
……いきしゆきて開きつぱなひになつひやううう  
あつ……ひうう……」

愛衣

「あ、ああ……はひつ……ん、んん……はあ、  
はあ……ふう……ふううう……ん、はあ  
うう……やううう……しゅ」「しづつ治まつてき  
ひや、かも……ん、うううううう」

愛衣

「んんひ……もひ……まだ『ザート』の準備もしてないのにつまみぐいしちやつてえ……そんな悪い子にはデザートおあずけしちやうよ?」

愛衣

「えへへ♪ ううそり♪ おあずけなんてしないからそんな悲しそうな顔しないで。私もいっぱいあなたに食べて欲しいし、何より、おいしくいただいてもらわないと子作りエッチできないもんね♪」

愛衣 「それじゃあテーブルの上にちょっと失礼しちゃうね……」

愛衣 「よつと……あはは……テーブルの上に腰かけちゃうなんて、ちょっとお行儀が悪いかも……もしまに見られてたらお説教ものだよお……」

愛衣 「でも今の愛衣はあなた専用の食後のデザートだから……人じやなくてお料理なら、テーブルの上に乗るのは当然の事だから、許してくれるよね♪」

愛衣 「んっ、このまま仰向くなつて、うう……恥ずかしいけど、こう、足を開いて、エプロンもたくし上げて……あつ、やんっ！ スースーしちやつて……ひう……やつぱり恥ずかしい……」

愛衣 「ど、ど、かな？ 愛衣のおまんこ、よく見え  
る？ まだ毛も生えてないツルツルお子様おまんこ……あなたにいっぱい虐められたから、こんなにひぢやひぢや濡れちゃつてるの」

愛衣 「あんっ！ やあ……そんな顔近づけちゃ鼻息が当たつてくるすぐつたいよお……」

愛衣

「えへへへ デザートも気に入ってくれたみたいで  
良かつた♪ でも、まだ食べちゃだめだよ？ ま  
だ愛衣のおまんこ デザートは完成してないの。今  
仕上げに入るからそのままおまんこよく見て  
て？」

「ん、ほら」れ。何か分かるかな？ そう、いつもパンケーキにかけてる蜂蜜だよ♪ これを、愛衣のおまんこにたらして……ほら、とろ~り

愛衣 「あつ、結構冷たい……あんつーひやうう敏  
感などこの……クリちゃんにもかかつて……  
やあ、蜂蜜かけただけでも感じちやう……」

「ん、ショット……」「うう……」「れぐらじども「じか  
な……? うわあ……私がやつておいた」「つまつ  
ちやうのもあれだけど、おまんこ、蜂蜜と愛液と  
お潮ですつい事になっちゃってるよお……」

「これから」を、あなたに舐めてもらうんだって  
考えただけで……ああ、またおまんこの穴からお  
汁溢れきちゃって……まだ食べられてないのに  
おかわり出しちゃつてるので……」「

「ねえ、あなたも、もう我慢できないよね？ 私も早く大好きなあなたにいっぱい食べて欲しいから……愛衣の特性蜂蜜漬けおまんこ、いっぱいペロペろして、愛衣の全部味わって？」

愛衣

「あ……、あなたの顔がどんどんおまんこに近づいて……そう、そのまま……舌をおまんこに……ひやあああんつ！…」

愛衣

「んはあつ、ああんつ！ ひやううつ！ あなたの舌がおまんこにい……あつ、ああつ……べろべろされてるうつ！ 蜂蜜漬けの新妻おまんこべろべろされちやつてるのおり！」

愛衣

「ひううつ、あひやあつ！ 舌が私の愛液と蜂蜜を吸い上げてつ！ ぴちゃぴちゃされてえつ！ あんつ！ はふううふああああああつ！」

愛衣

「んはああつ！ いいつ！ 気持ちいいよお！ もっとべろべろしてつ！ 愛衣のおまんこはあなただけのものなんだからあ…… あなただけのおまんこだからあつ！」

愛衣

「んんうつ！ ひやううつ！ んつ、ふああつ！ ああつ！ 舌が熱くて、おまんこジンジンしてきちゃつてえつ……ひううつ、ふああつ……ああんつ！」

愛衣

「はう……あひううつ……やあ……舐められたところからまたどんどんエッヂなお汁が溢れてきてえ……おかげりが出てきちゃつてるよお！」

愛衣

「ひやあああつ！ あつ、あううんつ！ やつ、ダメえ……おまんこのビラビラかきわけて、舌入れちゃらぬえ…… やあ……ああんつ……！」

愛衣

「ふああああああ…………あうう…………！ そなあ  
……おまんこの中まで味わわれてえ…………んつ、  
ひやううう！ あつ、ダメ！ ダメダメえ！ そ  
んなじゅるじゅる吸わないでえ…………！」

愛衣

「やあ…………ひめりつてばあ…………デザートはおまんこ  
の表面だけで、膣中は違うのぉ…………ん  
ひやあつ！ あつ、あつ…………ひめなのお…………」

愛衣

「ひうひうひ…………あつ、やらぁ…………おまんこからい  
やらしい音出ちやつてる…………んんつ、ひやああ  
…………あひひ…………ん、くうう…………んひううつ！」

愛衣

「うう…………あなたの舌全然止まらない…………そな  
においしいの？ おまんこ、大好きなのお？  
あつ、あつ…………あんつ！」

愛衣

「いいよ、好きなだけ舐めてえ…………？ 今日はあなた  
にいっぴいエッチしてもらうために頑張ったん  
だから…………好きなだけ私に欲情して？ 種付けエ  
ッチの準備、いっぴいしよお？」

愛衣

「あつ！ んひやあああつ！ ああつ！ は  
うううう…………あつ、やああつ！ また舐める  
の激しくなつてえ…………！ ああ…………ひううつ！  
おまんこひめえ…………気持ちよすぎた熱くなつちや  
うう…………！」

# 愛衣

「えへへー、へへー……峰蜜も古どおまん」の奥  
にねり」まれてえ……私のおまん」、膣中から甘  
くとろかされちゃうえよ……はうはつ……  
ひやつ、あああつー」

愛衣

「ひやううう……そんな……クリちゃんも吸つ  
ちゃ……だめだよお……。中ドロロロしちゃ  
や、ひあひー。うう、んあああひー。」

愛  
衣

愛衣

あなたあ……ダメえ……」のままだとあなたの顔にかかるちゃうう……お潮かかるちゃうか  
らあ！」

愛衣

好きなんだか舐めていいって言つたけどお…  
はうう……これはダメえ、ひやううう……大好き  
なあなたの顔に潮吹きなんてえ……そんなの、恥  
ずかしくてダメなおつ！」

愛衣

「あっ、ひやああああああ！ そんなあつ！ あ  
ううう！ ひやわああああ！ はやい、はや  
いいいっ！ 舌ペろペろはやくて、気持ちいいの  
がおまんこに溢れて……ああああ！ 気持ちいい  
のとまらないよおっ！」「

愛衣

「あー、あー、あー、あー、あーー！」んなのダメな  
にい……好きになっちゃう……おまん」「ドガ一  
トペろペろ好きになっちゃうのおおー！」

愛衣  
「もう我慢できない……食べてえつ……いっぽい食  
べてえつ！ 愛衣のおまんこ好きに食べて、いつ  
ぱいペロペロして、ちゅぱちゅぱ吸って、沢山氣  
持ちよくしてえつ！ いっぱいお潮吹かせ  
てえつ！」

「ああつ、あううつ！ ひやわああつ！ イクツ！  
イチちやうよおつーー おまん」食べられて思  
いつきライチちやうのおりー！」

愛衣  
「はあ、んつ、ああつ！　ふあああつ……！  
ねえ……私のお潮、このまま飲んでくれる？　蜂  
蜜と愛液が混ざった愛衣のデザートジュース、ご  
くごく飲んでくれる？」

愛衣  
「ひやつ！ あ、ああ……！ もう出ちゃうから、  
このままおまんこ舐めて？ おまんこの穴口の中  
に入れて、愛衣のエッチなジュース沢山飲ん  
で？」

「ああっ！ イクっ、イクイクっ……！ おまんこ  
イクウ……！ ああっ！！ イッ、クゥウウウウ  
ウウ！！」

愛衣

愛衣

「ああっ！ひやううつ！旦那様に潮吹きすると  
ころ見られてえ……恥ずかしい……恥ずかしいは  
ずなのにい……それ以上に気持ちいいのが止まら  
ないのおつ！おまんこ気持ちよすぎてお潮止ま  
らないのおつ！」

愛衣

「ひやああんっ！ また潮出でえつ！ お願ひ、  
もつと飲んでえつ！ 愛衣のエッチなジュース  
いっぱい飲んでえつ！」

愛衣

「あー、あー、ああー！ 腰びくびく動いちゃう……氣持ちいいのでいっぱいになつて、あなたの顔に押しつけちゃうのぉー。」

愛衣

「お願い！ 腰暴れないよう」「腰やえつけながらおまんこ吸つてえつ！ おまんこジース吸い出してえつ！ 愛衣のエッチなおまんこ沢山舐めてえつ！」

愛衣

「ああー！ またイクー！ イッちゃうー！ イクー、イクー、クウウウウウウーーーー！」

愛衣

愛衣

「やあり……おまんこね……おまんこね……あ  
ひつ、はひつ……ひやうつ……せうつ……おま  
んこひくひく……おしつこの穴もぱくぱくし  
ちやうじえ……ああり……ひうう……」

愛衣

「あつ、あつ……はあ、はあ……ふううう  
んつ、はうつ……んん……はあうう……え、えへ  
へ……ふ、段々落ち着いてきたかも……」

愛衣

「ふうう……いっぽい愛衣の事味わってくれてあり  
がとうふ、あなたのお口、気持ちよすぎて最後ど  
うにかなつわやうかと思つちやつた」

愛衣

「あなたは大丈夫？ 最後、いっぽいお潮吹い  
ちやつて……お口の中にいっぽい出しちやつたよ  
ね……」めんね？ 本物は蜂蜜と愛液のおまんこ  
だけ味わつても、おつかなつて思つてたのにい

愛衣

「……ふえ？ 愛衣の潮吹きジユースもおいしかつ  
た……つて……ふえええ……おいしく飲んでくれ  
たのはうれしいけど、それはそれで恥ずかしきぎ  
てどうにかなつちやいそうだよお」

愛衣

「えへへへ 愛衣のスペシャルデザート楽しんでも  
らえたみたいで嬉しいふうすう！」恥ずかしかつ  
たけど勇気を出してよがつたふう」

愛衣

「ふふふ でもつふ 今日はまだまだこれからだ  
よ？ 今日はあなたといっぽい子作りエッチし  
て、赤ちゃんを作る為の日なんだからふ」

愛衣

「今のおまんこペロペロでね？ 私すっかり発情して、子宮も降りてきちゃってるの……朝には妊娠しやすくなるお薬も飲んできてるし、今膣中出しエッチしたら確実に妊娠しちゃうと思つよ。」

愛衣

「だからね？ いっぱい愛衣のおまんこ犯して？ あなたのおつきくてエッチなおちんぽで、まだJCでちつちやな愛衣の事孕ませて、ママにして？」

●トラック05：

シチュー：激しい前戯？の後、遂にリビングのテーブルに乗ったままの体勢で孕ませエッチすることになり……

愛衣

「あっ、きゃんっ！ エ、えへへ……あなたの赤ちゃんぽがおまんこに当たつて……テーブルに押し倒されたまま孕ませセックスなんて、何だかあなたに犯されてるみたいで、すっごく興奮してきちゃうかも……」

愛衣

「あなたは大人で、体もすっごく大きくて逞しくて、とっても素敵で……それに比べて、私なんてこんなに小っちゃくて、お胸もぺったんこで……女性としての魅力なんて全然ないのに……そんな私が、今はこうして素敵なあなたをこんなに興奮させられてるなんて夢みたいで……すっごく嬉しいよお♪」

愛衣

「こんな私を好きになつてくれてありがとう。」んな地味でぺったんこな私に欲情してくれてありがとう。私と結婚してくれてありがとう……！」

愛衣 「大好き……愛してるよ、私の最愛の旦那様♪ んっ、ちゅう♪」

愛衣 「あっ、ひやっ、ひにゃあああああん！！！」

「ふあああっ……あああっ……あんっ！ おちんぽ奥まで入つてきたあ♪ あっ、ひやうっつ……ふあああっ……ああっ……はううう……」

愛衣 「し、子宮の奥まできてるのぉ……ん、ひううっ……赤ちゃんのお部屋まで一突きで届いちやつてるの分かるのぉ」

愛衣 「ああ……ひやっ、あううう……ダメえ、気持ちよすぎるよお……あなたの赤ちゃんぽ素敵い……おまんこ」びつたり塞いじやうデカチンポ大好きい♪」

愛衣 「」のまま動かしたら、また気持ちよすぎて頭おかしくなつちやいそつ……♪ えへへ……ねえ？ おちんぽおまんこの中でいっぱい動いて？ 私は大丈夫だから。あなたの精液が出なくなるまで、たくさんおまんこエッチして、子宮にひゅっぴゅして赤ちゃん孕ませて？ 私の事、おかしくさせてしまふ♪」

愛衣

「あひ、ああひー、あひ、あひんツー、ふああひー、  
ひや「ひ、ひー！ おちんぽすんずん来てえー！  
おまんこ熱くなつてねー、ジンジン熱いちゃつ  
てるー！」

愛衣

「ああひー、おちんぽおー、おちんぽいー、おち  
んぽ氣持ちいいよおー、あなたとのハーラブせつ  
くしゅ氣持ひいー！」

愛衣

「ああひ……はー、はひひー！ おわんぽの先の段  
差が、膣中で引つかかってえ……、ああひー  
これ感じちやうのねー！」

愛衣

「あひ、んひ、んんひ……やー、あひ、ああひ……  
あんひ、ひや、ひや「ひ、ひー、氣持ちいい……  
♪ 感じちやう……子宮の奥が喜んでじやうてる  
のぉー」

愛衣

「ううう……おまんこお……あひ、やんひ、あな  
たのおちんぽではしたなくされちゃってえ……♪  
Hツチな声あげちゃってえ……、恥ずかしい  
けど、それが気持ちよくてえ……♪

愛衣

「ひやああひー、ああひー、やあんひ、もひと、  
もひと私を辱めてえ……、私の事、もひとHツ  
チで厭らしい女の子にしてえ……♪

愛衣

「あああー！ ふあああー……！ あー、あー、あー、  
んつ～ うう……おまんこパンパンされて頭真っ  
白にならやう～ どうかにトんでこつちやじやう  
だよお……♪」

愛衣

「あー、やあー……ん、ひう～～ ね、ねえ……  
お願い……キスう……キスしてえ……♪ 種付け  
プレスしながら、私がどこかいつちやわないよう  
に、強く抱きしめて、いつぱいキスして繋ぎとめ  
てえ……♪」

愛衣

「んつ、はふつー～ ん、んんうつ……んちゅつ、  
ちゅつ……ちゅつ、ちゅふつ……れるつ、  
ちゅつ、ぴちゅつ、れろつ、れろれろ……  
ちゅつ、ちゅううう～」

愛衣

「ふはい、はあ……んつ、ちゅふ えへへ、んつ、  
やつ、やつぱりキス、好きい♪ ハッチしながら  
のきしゅ……とつてもハッチでおまんこうす  
するのお♪」

愛衣

「もひう舌ひひてえ……んつ、れりゅれりゅ……  
んつ、ちゅつ、はふつ……れる、れるくちゅつ……  
…んつ… んん…ちゅふつ…ちゅつ、  
ちゅうう…ちゅうつ、ちゅふつ… れるれろ…  
ちゅつ～」

愛衣

「んいいいっ！ ああっ！ おちんぽおつ！ おちんぽ、おちんぽ……おちんぽおつ… んひ やあっ！ あああ… ひやうううつ… また 激しくなつてえ♪ パンパンつて私のおまんこ犯されてるのねつ…」

愛衣

「ああっ！ やつ、ひうつ… あああ… おちんぽ突かれる度にクリも擦れてえ…♪ 皮がむけちゃつてえ…♪ 気持ちいい♪ 気持ちよすぎで、ぶしづぶしお汁が洩れちゃつてるよお♪」

愛衣

「ああんぽ♪ 愛液おちんぽでかきだされてしまつたときの蜂蜜も膣中から出でてえ♪ ハツチな香りが凄いよお……♪ 種付けエッチ激しくてしょ！」ごのねつ♪」

愛衣

「おちんぽパンパン♪ おちんぽパンパン♪ もつと激しく腰振つて♪ もつと私の「」と擦しちゃうぐるぐる激しくパンパンしてえ♪」

愛衣

「私もあなたがもつと『』になつてくれるように… お・み・み♪ ゆまん♪ 突かれながらペろペろしてあげるね♪」

愛衣

「はむつ♪ ちゅつ、ちゅぶくちゅつ♪ ちゅつ、ちゅううう… れるれる… ちゅつ、れちゅつ… れるれる… んちゅつ♪ ちゅつ、ちゅつ、ちゅつ♪」

♪

愛衣

「ん～かわいい、かわいい、かわいい、好き、すき  
すきじゃ、かわいい、かわいい、かわいい、むさう  
♪」

愛衣

「ん～、ん～、かわいい、かわいい、かわいい  
すきじゃ、おちんぽ好き、おまんこもいと欲しい  
てえ、んちゅ、れるれる……ちゅ、  
ちゅ～♪」

愛衣

「あ～む～、くちゅ～、れる～、くちゅ～びちゅ～  
……ちゅ～、んちゅ～、れる～、れる～  
る～、ん～ちゅ～、ちゅ～、る～、  
る～、くちゅ～……」

愛衣

「あ～、やん、おちんぽ壁中で震えてる……♪  
耳舐められるの、壁に入れてるんだ……あ～  
♪ あん♪」

愛衣

「え、えくく～、耳舐め、して欲しかったらいつ  
でも、區域でいいからね、ん～、ひや～、  
ひやん～、朝起きる時も、お耳掃除する時  
も～、」飯食べる時も、お風呂に入る時もお～  
も、もちろん、Hツチしてると時も、こつだつて  
お耳舐める～してあげるのね～」

愛衣

「お嫁さんの愛衣が、ん～、あん～、あなたの為  
に、毎日全身で！」奉仕してあげるの、Hツチ  
な事してあげるのね～」

愛衣

愛衣  
「んん!! はあ!! やい、やん!! だ、だか  
らあ……んっ、はあ、反対のお耳も、私のお口で  
ぺろぺろしてあげる♪」

愛衣  
「は～むつ～ んちゅつ、ちゅつ……れちゅつ  
ちゅふつ……れるつ、くちゅぴちゅつ……  
ちゅつ……んちゅつ……れろつ……れろれろつ……  
…ん～ちゅつ……ちゅぱつ……んつ……れるつ……  
…くちゅ……」

「はぶつ！ んぴちゅ、くちゅ………… んんつ！  
はあ………… んつ………… はあ………… れろれろ………… んつ、く  
ちゅ………… ！ グちゅ、ぴちゅ………… ！ ふああ  
んちゅつ………… れろれろ………… 「…

「んああつ！ はあ、あひやつ！ ら、らめえ……お耳舐めてるのにそんな腰、思いつ切り突かれちや……ひやつ、やあつ♪ ペろペろ集中できないよお……♪ あつ、あつ、ああつ♪」

愛衣

「これえ……本気!」ストン……「らぬえ! 気持ちいいのね♪ 必ず孕ませる♪ 気持ちがおちんぽを伝つて分かつちやう……分か「いやれちやうよ……♪」

愛衣

「ああんっ! あつ、んひいいっ! おむりんぽ強いいー! おちんぽ激しい!! おちんぽ大しゅきいこつ……」

「あつ、あつ、あつ、あつ♪ ダメ! ダメダメダメダメ! だめええつ……」

愛衣

「んひやああああああつ…… やあつ…… 種付け  
プレスされながらおまんこ吹いちやつてるのね♪  
気持ちよすぎでねまん♪おむらししあやつてる  
のお♪」

愛衣

「あつ、ひいいこふうこふう…… またあつ! また  
お潮吹いてつ……止めるなくてえ! 気持ちいい  
のがビクビクきちゃうてえ♪ おまんこ「らぬえ:  
…おかひくなる…おかひくなつひやうよお…  
♪」

愛衣

「あ、ああつ! 潮吹きながらおまんこパンパンられ  
れてえつ! 赤ちゃんのお部屋押しこげられ  
ちやつてえ……♪ おまんこ「もうだめえ……  
孕むう……孕みたがつちやつてるよお……♪」

愛衣

「おまん」「おひ、おねひ！ んひやああひ、あああんつ！ イクウひー、うひー！ 潮吹いたのにまた、イヒくううひ……」

愛衣

「らめえつ……おまんこイケの止まらないよおつ……痙攣止まんないのおつ！ 気持ちよしうざいなう……おまんこお……おまんこおお……」

愛衣

おおん！」机の上に立つて、  
母もせりへしをひしおれ、おまえに  
こわしへ……。わいわやう口づね世に」母が  
しゃべりやう。

愛衣

愛衣

「はあ、はあ……ひい、ひかう……あ、あ……」  
「お、おまんこの中で、おちんぽ大きくなつ  
てえ……腰振りながらすりく震えちゃつててえ  
……あ、あなたもイきそうなんだね？　おちんぽ  
ひゅつひゅしちやいたいんだね」

愛衣

「」のまま壁中に、んひうつ！ ふああつ！ ああ  
んつ、だ、出してえ♪ あなたの精液で愛衣の事  
孕ませてえ♪ あなたとの赤ちゃん作らせてえ

愛衣

「おまんこにおちんぽミルク！ 出して！  
ひやあつ、ああんつ！ 子宮の奥に出してえ♪  
種付けしてえ♪ あなただけの愛衣にしてええ  
えええ！！」

愛衣

「あつ、ああつ、ああああつ！！ イクッ！ イク  
イクイクイクッ！！ イツ……クウウウウ  
ウ……！」

愛衣

「あつ、ひやあああああああああつ！！」

「んひやああッ！ あつ、ああああッ！！ 出で  
るうッ！ おまんこの膣中に種付けミルクいっぱ  
い出でりゅのおつ……！」

愛衣

「子宮が精液で満たされてえ……♪ イクッ、また  
イツ……クウウウ！！」

愛衣

「んひやああつ……おまんこまたイッひやつ  
たああ……♪ おまんこ熱いい……♪ しゃいべ  
あちゅいのお……♪ 濡けちゃう……おまんこ  
精液で蕩けちゃう……♪」

愛衣

「あつ、ひやうううう……♪ ああ……また出で  
りゅう……♪ おまんこの膣中でまた射精して  
りゅう……♪ 私の事絶対孕ませるつもりなん  
だあ……♪ えへへへへ いじよお……♪  
もつら出ひてえ♪ 愛衣に赤ちゃん作らせでえ  
……♪」

愛衣

「全部おまんこで飲んであげりゅからあ……♪ あなたのおちんぽでおまんこに栓してえ……♪ こぼさない様に、ずっと」のまま入れてしまふ♪

愛衣

「んっ、んひやつ！ 子宮にとくとくつ、どひどろした精液注がれてるの分かっちゃう……♪ 今私たちの子が作られちゃつてるんだよね……ああ……♪ 幸せだよお……♪」

愛衣

「えへへへへへ♪ 好き、スキンキィ♪ 大好きい♪ 幸せすき♪ もうあなた以外の事何も考えられないお♪ すき♪ 愛してる、誰よりも愛してるよお♪」

愛衣

「んちゅう♪ ちゅう、ちゅう♪ ああ♪ もうダメえ♪ あれだけおまんこイかされちゃったのに、またあなたのちんぽ欲しくなっちゃつて……もっともつとむへへつと、エッチしたいって思つちやつてるの♪」

愛衣

「ねえ、あなたはびりゅ もつとおまんこに種付けセックസできるー……つて、わつ！ おちんぽ膣中でまた大きくなっちゃつて……」

愛衣

「あはは♪ す♪ ぶやる気満々だね♪ もつと私の事種付けして孕ませたいって思つてくれて、すつ「♪ ぐ嬉しいな♪」

愛衣

「じゃあ」のまま2人とも氣を失つちゃうから、もう  
でいっぱい、でいっぱいHツチして、双子の赤ちゃん  
が出来ちゃうくらい、いっぱい種付けエツチし  
よ。ね?」

九〇九

シチユ・激しいエツチも終わり、いつの間にか寝室のベッド上で気を失つてたな  
人。愛衣が目を覚ますと最愛の人が日の前で寝息をたてていて……

「ん、んんつ……んつ……ふああうう……（欠伸）  
んにや……」」は……ベッド？ あれ、いつの間に移動したんだっけ……？ エツチしすぎて記憶がないかもお……」

「旦那様は……ひて、おひ……ふらふ すぐ隣で  
ぐつすり眠っちゃってね。えへへへ、相変わ  
らず可愛い寝顔♪」

愛衣  
「ふ、ちゅうふ 今日はお疲れ様。いっぱいHツチ  
してくれて……こんなに気持ちよくしてくれて、  
最高の一回だったよ♪」

「今もお腹の壁中であなたの精液がたぶたぶしているのがわからいやつの……えへへへ　これ、間違いなく孕んじゃつてしまね。嬉しく……。嬉しき泣いちやいわ！」

愛衣  
「」の小さなお腹の中にあなたと私の愛の結晶があるって考えると、にやけが止まらないよお~♪

愛衣

「これからきっと、2人の夫婦の生活とは違った生活になつていつぱい忙しい」ともあると思うけど、あなたと一緒に何でもできるって思えるから……♪」

愛衣

「だからね？　これから先もずっと一緒にいて？　ずっと私のことを愛して？　私もあなたのことを一生好きでいるから……♪　あなた以外の人の事なんて考えられないくらい大好きだから……♪」

愛衣

「私と私たちの赤ちゃんのこと、よろしくお願ひします♪」